

世話人会 5月9日に開催

新たな活動方針を決議



ふるさとネット世話人会の参加メンバー

全島避難指示解除後、望んでも帰島が叶わない在京者の支援等を目的に設立した「三宅島ふるさと再生ネットワーク」の活動は、立ち上げから13年が過ぎたことで節目を迎えている。5月9日に行われた世話人会では、本紙の休刊など新たな活動方針を決議した。

ふるさとネット世話人会は、令和元年5月9日 巣鴨で開催し今後の活動について協議。方針と決算・予算を決めた。

ふるさとネット世話人会は、平成28年(2016)5月に、一時的な増加が見られたが、その後は放出量も少ない状態が続いている。現在は、雄山山頂までの道路整備を行い、緊急避難施設が完成すれば、観光資源として活用の準備を急いでいる。

このような情勢なので、ふるさとネットの活動も見直すことになった。

一、情報活動
被災者にとって一番求められるものは、情報である。向上高校新聞委員会はOBによるDTP

二、被災地との連帯活動
各被災地と連携する。交流、ホームページ等で経験と教訓を共有していきたい。

三、三宅島の復興・再生の取組について
三宅島の復興・再生は、

四、その他
これまでの活動のネットワークを生かす努力をする。



発行所：三宅島ふるさと再生ネットワーク
〒173-0005 東京都板橋区仲宿2-1
TEL 090-4922-0798
FAX 03-3964-4065
発行人：会長 佐藤就之

事務局だより

「三宅島新報」発行は、平成18年(2006)1月1日から13年間、編集などの作業を、向上高校新聞委員会の卒業生がつくるDTPAに担当していただきました。また多くの皆さまに、寄稿や取材などご協力をいただきました。改めて心より感謝を申し上げます。なお、DTPAの有志を、8月24、25日に、三宅島にお招きする予定です。

【三宅島ふるさとネット事務局】
郵便番号：173-0005
住所：板橋区仲宿2-1
携帯：090-4922-0798
FAX：03-3964-4065
連絡先 佐藤就之

ふるさとネット 平成30年度決算報告

【収入の部】(2018年1月1日~2018年12月31日)

科目	2018年度予算	2018年度決算	2019年度予算
寄付金	550,000	527,000	500,000
活動収入	0	0	0
雑収入	0	0	100
前期繰越金	7,589	7,589	57,918
収入合計	557,589	534,589	558,018

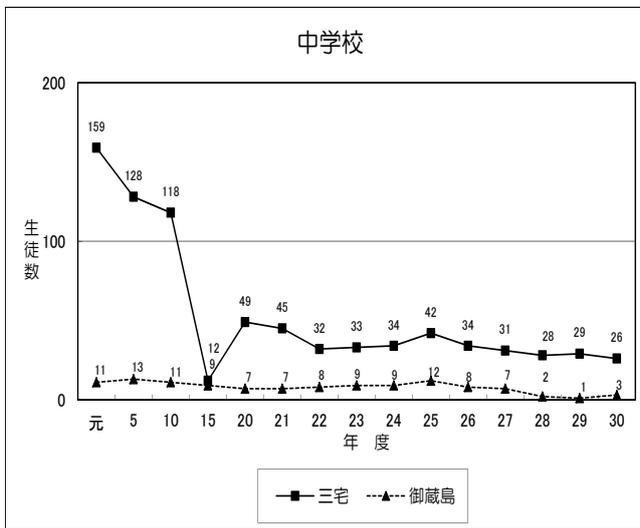
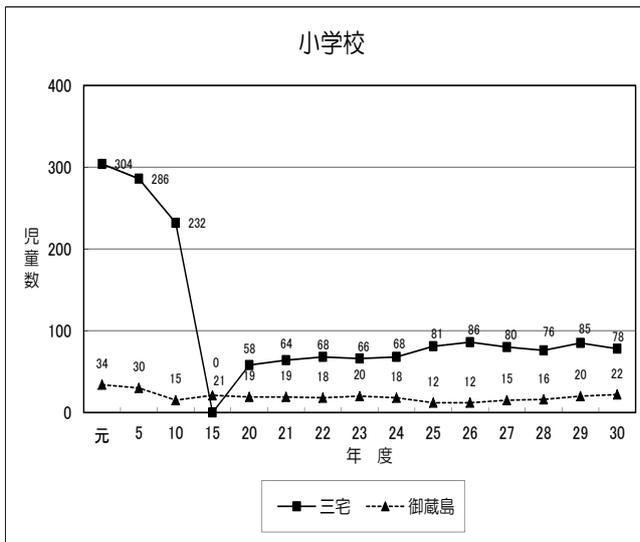
【支出の部】

科目	2018年度予算	2018年度決算	2019年度予算
広報費	688,000	467,112	520,000
訪問活動費	0	0	0
活動費	5,000	0	3,000
会議費	13,000	0	3,000
事務備品費	1,100	0	1,000
通信費	33,200	1,970	30,000
渉外費	0	0	1,000
雑支出	3,000	0	18
小計	740,300	469,082	558,018
次期繰越金	0	57,918	0
合計	740,300	527,000	558,018

若者を増やすカギ

三宅島 御蔵島の児童・生徒数の推移

平成30年8月1日現在



東京都三宅支庁発行の平成30年度版「管内概要」の中から、主な課題を取り上げて評論を加えたい。教育関連では、村内小・中学校新入生は増加したのに対し、高校卒業生の島外流出の深刻さが明らかとなった。観光関連においては、高運賃や宿泊費の影響から若年層の来島者数が横ばいとなっており、その増加に向けた課題が浮き彫りになっている。

高校卒業生の流出 深刻な状況明らかに

小・中学校入学者は増加したけれど…

村内における今年の新生入生は、小学生が17人（昨年比7人増）、中学生が6人（同2人増）の計

人23であった（左の表は平成30年度までの児童・生徒数の推移。「概要」133頁より作成）。本

年度「概要」に示された29年度中学卒業生の進路を見ると、卒業生12人（御蔵島含む）のうち、10人

が三宅高校へ進学している。一方、高校卒業後の進路を見ると、29年度三宅高校卒業生14名全員が島外へ進学、または就職している現状が明らかになった。

過去のデータを見ると、27年度に1名が島内に就職した以外、過去5ヶ年度の卒業生全員が島外へ出ており、若年層の流出が深刻な現状であることがわかる。毎月ふるさとネット宛

に、三宅小学校（校長 堅山浩人先生）、三宅中学校（校長 阿部仁明先生）から「学校だより」を送ってくださっている。たいへんありがたいことである。「学校だより」では校長・副校長先生と各先生、および職員が熱心に教育に取り組んでいることが、充分うかがい知ることが出来る。島の教職員もすっかり配置されているため、今後の課題としては、生徒が希望する進路選択への先生、PTA、教育委員会が一丸となった取り組みである。それが実現すれば、親の経済負担も軽減でき、「ふるさと」の発展や「貢献」等への愛着が増し、若年層のターンや卒業生の島外流出解決の糸口も増えよう。昨年度末には卒業式、本年度の入学式のご案内を頂いていた。しかし2月に亡くなった妻の入退院等のため、式に出席できなかつたのは残念なことであった。島の教育に触れるよい機会でもあり、次回は参加したい。

三宅支庁 管内概要より考察

教育と観光事業が

来島者は18年以降ほぼ横ばいの状況

ゴールデンウィークは10連休の影響で20%増

今年4月末からの10連休などがあり、東海汽船の三宅島への乗船者は、前年度と比べて20%前後増えている。各島でも観光を主要事業としているので今後も島への観光客の増加が期

待できる。御蔵島の来島者は三宅島の約21%程だが、右の「来島者の状況」観光人口の推移（概要104ページ）で見ると、平成12年の全島避難中に一気に右肩上がりとなり、そ

その後21年から下がったがその後回復。一方、三宅島は、18年以降下降した後多少回復してはいるが、ほぼ横ばいの状況が続いている。平成29年度三宅島の宿泊施設と収容人数は、旅

館・ホテルが2軒（定員70人）、民宿は30軒（定員510人）、バンガローが1棟（定員8人）、キャンプ場は1ヶ所（定員12人）である。合計すると34軒になり、定員が600名だ。一方、御蔵島の平成29年度宿泊施設と収容人数は、通年営業の民宿が7軒（定員109人）で、季節営業は1軒（定員12

人）、バンガローは5軒（定員20人）で合計13軒あり、141人収容が可能である。以前にも本紙で触れたが若い来島者の悩みは、高い運賃と宿泊代だと思われる。その為、若者の集客増加に向けて動く中で、苦勞を重ねているリーダーの悩みを聞くことが重要だと考える。一般では、繁忙期には、大

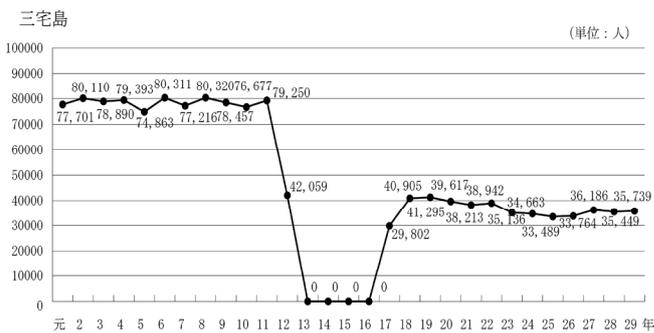
売りだしする等々々なものが安くなるはずだが、船の運賃は逆に高くなる。これでは、来島者は増えない。宿泊代を軽減するため、バンガローやキャンプ場の増設を公営化でまかなったらいのではな

いかと思う。民宿については経営者の高齢化によって、廃業傾向なのが気がかりだ。最後に、人口動向の出生・死亡について平成29年1月から12月までのデータでは、三宅島は出生7人、死亡20人で13人の減少。一方、御蔵島はな

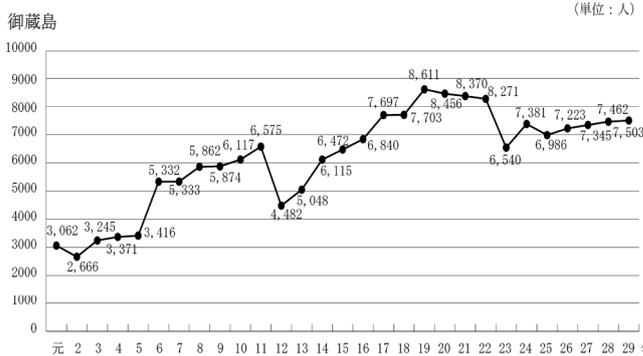
かった。各3人で人口の増減はなかった。（移住者は別）

三宅島 御蔵島来島者の状況

ア 観光人口の推移



注) 平成12年9月以降平成17年1月末まで、三宅島は全島民島外避難指示により、渡島不可。



(平成29年伊豆諸島・小笠原諸島観光客入込実態調査報告書)

イ 年別、交通機関別来島者の状況 (1月~12月) (単位: 人)

交通機関		年		
		平成27年	平成28年	平成29年
航空機	三宅島	9,081 (20.1%)	9,410 (21.2%)	10,756 (24.1%)
	御蔵島	2,421 (23.2%)	2,541 (23.5%)	2,622 (24.5%)
船舶	三宅島	36,158 (79.9%)	34,906 (78.8%)	33,925 (75.9%)
	御蔵島	7,999 (76.8%)	8,266 (76.5%)	8,098 (75.5%)
計	三宅島	45,239 (100.0%)	44,316 (100.0%)	44,681 (100.0%)
	御蔵島	10,420 (100.0%)	10,807 (100.0%)	10,720 (100.0%)

(平成29年伊豆諸島・小笠原諸島観光客入込実態調査報告書)

福島からの移住者 国分晶子さんに聞く

「あの日から 8年目を迎えて」



東日本大震災による福島第一原発事故により住んでいた浪江町を離れ現在三宅島で生活をしている国分晶子さんに話を聞いた。現在も浪江町は「帰還困難区域」のままであり、放射能が飛散し続けている。除染・廃炉作業を行う作業員に感謝と変わりゆく故郷の「今」を伝えたいと話した。

東日本大震災による福島第一原発事故から8年が過ぎました。一昨年の春、浪江町の一部は避難解除になりましたが、私が住んでいた浪江町津島地区は、高線量の放射能が一気に降り注いだ地域の為、未だに「帰還困難区域」のままです。震災の後、三宅島にご縁を戴いてから2年になりました。島の皆さんにも良くして戴き、感謝の日々です。

三宅島は、約20年に一度の噴火を繰り返して、最後の噴火から間もなく20年になるそうです。それにも拘わらず経

ご寄付者名

三宅島建設工業株式会社様
光安千久子様 佐藤就之様
吉田信行様 柚木裕子様
土岐富士子様 倉持房枝様
青谷知己様 坂本健様
谷原和憲様 菊池千春様
佐藤宗ノ子様
皆様のご協力に深く感謝を申し上げます。

原発事故による逃避行を綴った紙芝居「見えない雲の下で」を上演

読売新聞4月28日号で、「感謝のノート 両陛下への思い(下)「遊びに来てね」実現に喜び」にきてねー実現に喜び三宅島噴火 帰島後も再会”5段抜き見出しで特集記事を掲載した。内容は、下田市に避難した

両陛下 島民帰島後の三宅島に小学生の「遊びに来てね」が実現

今年度の「3・11」では、勤め先の「デイサービス」にて原発事故による逃避行を綴った紙芝居「見えない雲の下で」を上演させて戴きました。利用者の皆さんは、真剣に聞き入って下さり、涙ぐむ方もおられました。これからも、紙芝居やDVDにて原発事故の事を伝えて

行きたいと思えます。昨年の北海道地震で、全道が停電になった時は、北海道唯一の「泊原発」が再稼動するのではないかと、とても心配しました。事故が起こる以前は、原発の「安全神話」を信じていた人の何と多かつた事でしょう。私もその一人でした。「水素爆発」や「メルトダウン」という言葉さえ知りませんでした。

漁師の家族で小学校2年のMさんと交わした「今度うちにも遊びに来てね」にこたえ帰島1年後の06年3月に両陛下が三宅島で再会。美しい記事である。両陛下は全島避難中に、8回も各避難所等を訪ね島民を労った。今でも「遊びに来てね」は、三宅島の復興に最も必要と呼びかけた。

帰島後いち早く三宅島にお出でいただいた上皇陛下のお心づかいを、全島民は忘れることはないだろう。

編集後記

私たちの先輩が、向上海校新聞委員会の取材をきっかけに編集を担当してきた「三宅島新報」が来年の1月1日号をもって休刊となります。その間、編集に携わらせていただいたことを光栄に思うとともに、三宅島の更なる発展を願っています。(DTPA一同)

「廃炉処理」にこれらどれ程の時間を費やす事になるのでしょうか。事故直後から、今現在も、昼夜を問わず、除染と廃炉作業に汗を流されている、大勢の作業員の皆さんに、慰労と感謝の気持ちでいっぺいです。これからも「浪江」に足を運び、変わりゆく故郷の「今」を伝えて行こうと思っております。